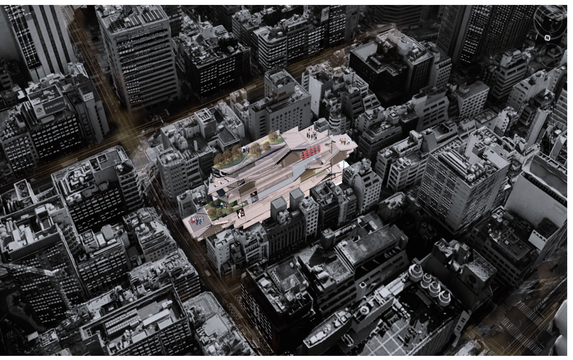
# GINZA ZERO

銀座の原点は、裏通りにある。
銀座では、近年大規模商業施設の計画が行われている。
こういった大規模開発は、商業的競争力のあるテナントを持つため、
歴史的街区に基づいた路地、隙間空間に息づく都市の濃密な文化を破壊する行為ではないか。
今一度、経済性や合理性を考えるだけではなく、銀座の原点である裏にある魅力的なアイデンティティを抽出し、
このまちを守る職人文化、伝統や景観を考えながら新しい形の建築を提案しする。
もっと魅力的な銀座を目指す。



## 銀座の空間—オモテ・ウラ

オモテ

銀座のまちでは、江戸時代から、街路がそのまま維持され、現在に到っている。銀座の表通りにはきらびやかなブランドショップに目を奪われがちである、しかし、人口減少、経済成長減速、ネット社会化などにより、こうした事業形態は供給過剰になると予想される。

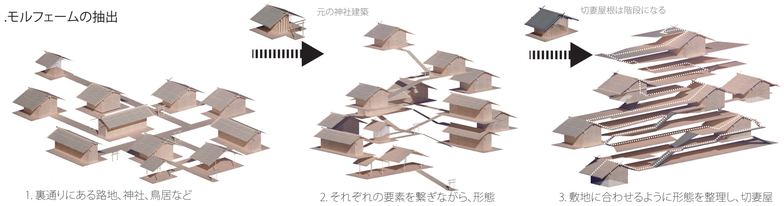
ウラ

裏には、雑居ビルや店舗の隙間に路地が引き込まれ、喫茶店、バーや飲み屋、そして、銀座の街と文化を支えてきた裏通りに建ち並ぶ老舗、その道を究めた小さな専門店などが混在している。
幾つかの神社も隠れている、とても小さな神社ながら、次々と訪れる人がいる。あまりに自然に周囲のビル化された景観にマッチし、行き交うサラリーマンで混雑する銀座の光景にすっかり溶け込んでいる。
こうした裏通りに神社とまちの繋がりは、銀座共同体の象徴的な核だったのである。しかし、少子高齢化と都市化にとともに、こうした地域のあり方を根本から掘り崩しつつある。

## 設計プロセス

銀座のに人達にとって、神社は祭神やご利益で選ぶものではなく、その地域に生まれ落ちた時から帰属するものだ。神社は単なる信仰対象ではなく、地域共同体の象徴的な核だったのである。そして、銀座の裏通りにある小神社と路地の空間モルフェームを抽出し、銀座に伝統と未来の新たな共存の形を提案する。

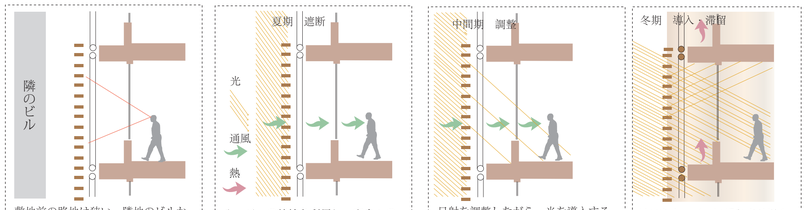
### 1.モルフェームの抽出




1. 裏通りにある路地、神社、鳥居などの要素を抽出する。
2. それぞれの要素を繋ぎながら、形態を立体化する操作。
3. 敷地に合わせるように形態を整理し、切妻屋根は階段や広場になり、回遊しながらショッピング楽しめる。

### 2.ファサード

景観や環境的な配慮のため、ファサードには木材のルーバーをつかう。




敷地前の路地は狭い、隣地のビルからの圧迫感を和らげるため、優しい木材のルーバーを使い、景観を向上させる。

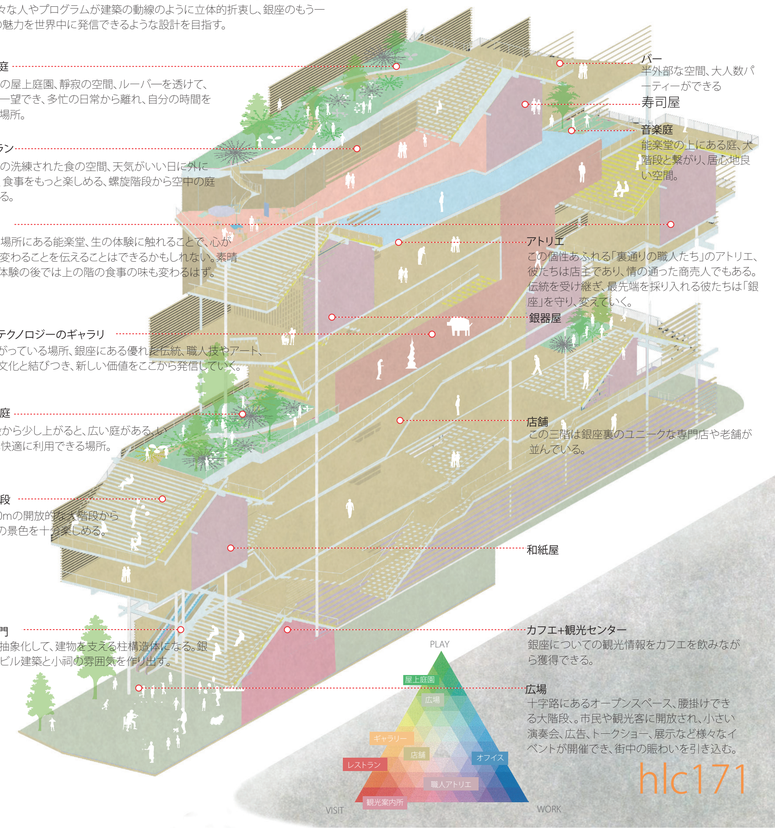
ルーバーの特性を利用し、室内への日射を遮蔽することにより冷房熱負荷を低減。

日射を調整しながら、光を導入する

日光をルーバーに反射させ導入、ダブルスキン構造で熱を溜める。

### 3.プログラム

形態的のシンボル性だけではなく、観光客や住人、商人など銀座の裏らしい、様々な人やプログラムが建築の動線のように立体的折衷し、銀座のもう一つの魅力を世界中に発信できるような設計を目指す。




**空中の庭**
最上階の屋上庭園、静寂の空間、ルーバーを透けて、銀座を一望でき、多忙の日常から離れ、自分の時間を過ごす場所。

**レストラン**
最上階の洗練された食の空間、天気がいい日に外に出ると、食事をもっと楽しめる、螺旋階段から空中の庭に行ける。

**能楽堂**
独立な場所にある能楽堂、生の体験に触れることで、心が生まれ変わることを伝えることはできるかもしれない。素晴らしい体験の後では上の階の食事の味も変わるはず。

**伝統とテクノロジーのギャラリ**
庭と繋がっている場所、銀座にある優れた伝統、職人技やアート、様々な文化と結びつき、新しい価値をここから発信している。

**階段の庭**
大階段から少し上がると、広い庭がある。いつでも快適に利用できる場所。

**空中階段**
地上20mの開放的な階段から、銀座の景色を十分楽しめる。

**鳥居の門**
鳥居を抽象化して、建物を支える柱構造になる。銀座裏のビル建築と小径の雰囲気を作り出す。

**バー**
半外部な空間、大人数パーティーができる

**寿司屋**

**音楽庭**
能楽堂の上にある庭、大階段と繋がり、居心地良い空間。

**アトリエ**
この「個性あふれる「裏通りの職人たち」のアトリエ、彼たちは店主であり、情の通った商売人でもある。伝統を受け継ぎ、最先端を採り入れる彼たちは「銀座」を守り、変えていく。

**銀器屋**

**店舗**
この二階は銀座裏のユニークな専門店や老舗が並んでいる。

**和紙屋**

**カフエ+観光センター**
銀座についての観光情報をカフエを飲みながら獲得できる。

**広場**
十字路にあるオープンスペース、腰掛けできる大階段。。市民や観光客に開放され、小さい演奏会、広告、トークショー、展示など様々なイベントが開催でき、街中の賑わいを引き込む。

hlc171